

銀漢亭日録



伊藤伊那男

6月4日(水)

▼「宙句会」あと九人。「きさらぎ句会」あと八人。「宙句会」には伊那北高校十五年ほど後輩が見学参加。広渡敬雄さん三人。一般のお客さんも何組かあり、久々賑わう。

5日(木)

▼「十六夜句会」あと七人。カウンターは越村蔵さんが、伊丹三樹彦さんの息女、啓子さんと。池田のりさんが飛鳥蘭さんと。二人共、慶應「丘の会」のメンバー。月野ほなさん信州から戻る。一平、敦子、文子……。

6日(金)

▼「大倉句会」あと十五人。清人さん鮪捌く。伊東岬さん娘さん経営のパン(SANGO)持参。湘南の人気店。片山一行さん「大倉句会」に出席。宇和島のじやこ天、ちくわ、かまぼこなど沢山。結城爽さん夫妻も「大倉句会」に。お二人とも津山の西東三鬼賞の秀逸を取り、その席上で片山さんが「銀漢」を持っていたためお互いが解ったという関係。谷岡健彦さん「銀漢」連載の「せりふの詩学」がカモミール社から「現代イギリス演劇断章―舞台で聞いた小粋な台詞36―」として出版される。

7日(土)

▼梅雨入りか。冷たい雨。十三時、赤坂「うちだ」。皆川丈人、文弘さんをお招きして「いわき吟行会」の慰労会。当方、武田編集長、大野田、展枝、いづみ、洋酔さん。鰻料理、雑炊絶品。あと表参道のカラオケのある店に移り、二十時頃までか……歌う。あと渋谷で途中下車して飲むが記憶薄い。

13日(金)

▼昼、怖い程の雷雨。店、袖口満さん、閑散。遅くに佐古田亮介神保町古書店連盟会長来て、「神田古本まつり」の投句少ない、心配だと。

14日(土)

▼十時、発行所にて運営委員会。午後、「銀漢本部句会」、五十人。「本の街」の俳句欄を見て見学の方も。あと、「随一望」にて十数名で親睦会。家は学校の音楽祭あとの恵俊彰さん一家他。教家族が来て大宴会あった様子。

15日(日)

▼午後まで休養。サッカーワールドカップ、コートジボワール戦をうとうと見る。負け。秋葉男さんから極上の鮪刺身沢山。鮪パーティーとなる。父の日に桃子の友人から「頼祭」の発泡酒。

19日(木)

▼「銀漢句会」あと二十人。遅い時間、岩波OB・今井先輩、東大新聞研究所OBの某氏と。一平さんグループ、句会あと六人。など。新潟日報・大日向氏より電話。小生の食物エッセイ昨日より連載されていると。十回連続。他に何紙かにも同時掲載。

21日(土)

▼「纏句会」。日本橋は再開発になって大賑わい。杉阪、谷岡氏は「金星句会」の本郷合宿で欠席。終わって題の穴子の姿煮。ばい貝、茄子と湯葉のあんかけ、あと握り。帰宅して家族揃っているというので佐賀武雄の温泉湯豆腐、秋葉男さんからの鮪、作り置きしておいた鮑酒蒸しなど。白ワイン、「満寿泉」の特上。

22日(日)

▼十時、四ッ谷、ルノアール。「金星句会」合宿あとの締め(杉阪さん指導)。事前投句十句についての成績発表と選評。合宿中の四回の句会の選など。十二時まで。午後、「信州伊那井月俳句大会」の選句、八月号選句など。

8日(日)

▼強烈な二日酔い。ああ、また……。昨日は十三時から十時間位飲んでいたことになるか。書かねばならない原稿などあるが昼過ぎまで何も出来ず。ヘアメイクの中川さん来て家族の整髪。私も呼ばれてカットと眉毛の手入れ。十五時から杏一家来て家族の宴会。店で焼いておいた鮎の塩焼十五本出す。酒盛り、ああ……また。

9日(月)

▼宮澤の初監督映画『うみやまあひだ』試写会好評で11日(水)国会議事堂内で映写会と。「海の日」に對する「山の日」も国民の休日に制定する動きに絡んで。大西酔馬君、五十九歳誕生日パーティー。結局三十八名及びサキソフォン奏者、仲野麻紀さんとその仲間(母上も)四名など。差し入れの酒、食物多し。二十二時半まで。柴山つぐ子さんより、「北軽井沢句会」一人入会と。小野寺清人さんの父上御逝去と。氣仙沼大島でお世話になった。享年九十一歳。

10日(火)

▼角川「平成俳壇」締め切り日、発送する。「火の会」六人と少ない。あと、今後の会の運営についての話し合い。太田うさぎ、広渡敬雄、阪西敦子、天野小石さん。阪西敦子、三年ぶりに水戸から東京青山に転勤と。乾杯す!

11日(水)

▼午前中、ずっと「銀漢」七月号の校正。十四時くらいにようやく食事。店に行くと発行所は「梶の葉句会」。すっかり失念していて、選句、選評でさず、詫びる。店、閑散。

12日(木)

▼午前中、洋酔さんの第二句集の跋文仕上げる。「火の会」の今後についての提言書。店、環さんの女子会五人。カウンターは俳句仲間の常連。

23日(月)

▼清人さん、出版業界仲間と「鮪を食べる会」。鮪、山ほど。ほや、牡蠣六十個を蒸す。鮪はズケ焼き、胡麻和えも。二十七人。二十二時半には閉める。

24日(火)

▼「信州伊那井月俳句大会」選句送る。応募千七百余句。玉藻」の奥住氏、松山さん、飯田の方と。「塔の会」あとの佐怒賀正美、真砂年、森岡正作さんなど。

25日(水)

▼朝、サッカー、コロンビア戦後半を見る。二敗一分。「銀漢」八月号選句。金井硯児さんに「銀漢亭」の看板、品書の墨書頼み完成。新規客二組ほどあったのはその効果?「雛句会」十人。対馬康子さん久々来たので閉店後、うさぎ、小石、展枝、いづみ、清人さんと「天鰻餃子房」。

26日(木)

▼八月号の選句やつと終わる。エッセイ一本。宮澤と桃子、宮沢りえさんの舞台「海辺のカフカ」へ。ポスターは宮澤の写真。

27日(金)

▼発行所「門」同人会へ貸し出し。十四時、解錠。店、三ヶ月に一度の「白熱句会」。水内慶太(月の匣)、小山徳夫(爽樹)、藤田直子(秋麗)、檜山哲彦(りの)、佐怒賀正美(秋)、井上弘美(汀)。

28日(土)

▼十四時、ロイヤルパークホテル。星野椿主宰「玉藻」千号記念祝賀会。十四時から小泉進次郎の講演会。東日本大震災復興をテーマに俳句なども絡めて。三十三歳とは思えぬ、一時間、全く飽きさせない話、見事! 十七時より祝賀会。来賓二百数十名。会員三百名の大パーティー。椿さんから高士さんへ主宰継承。同ホテルにて二次会も。(星々の千のまたき梅雨晴間)